

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度第1回弘前市文化芸術推進審議会
開 催 年 月 日	令和3年4月30日（金）
開始・終了時刻	10時00分から12時00分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議長等の氏名	小川 幸裕
出 席 者	会長 小川 幸裕、 会長職務代理 杉山 祐子、 委員 東海 孝尚、 委員 古川 浩樹、 委員 鴻野 孝典 委員 佐藤 寿子、 委員 大川 誠、 委員 武田 孝三 委員 島田 之恵
欠 席 者	なし
事務局職員の 職 氏 名	観光部長 神 雅昭 文化振興課長 佐藤 孝子 同課長補佐 安田 広記 同主幹 金川 浩人 同主事 齋藤 翔太
会 議 の 議 題	弘前市文化芸術振興計画について ①審議会意見に対する対応について ②基本理念について
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会議資料の名称	・資料1 審議会意見まとめ ・資料2-1 【市民向け抜粋版】アンケート分析結果報告書 ・資料2-2 【団体向け抜粋版】アンケート分析結果報告書 ・資料3 弘前市文化芸術振興計画（素案）_審議会意見反映 ・資料4 文化芸術振興計画にかかる基本理念について ・当日追加資料 事前送付資料の修正について
会 議 内 容 （ 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 ）	1. 開会 2. 委嘱状交付 鈴木前委員の退任に伴い新たに委員に就任した古川委員へ、神観光部長から委嘱状を交付した。 3. 会長挨拶 4. 議事 議題 弘前市文化芸術振興計画について

	【①審議会意見に対する対応について】 (事務局) 資料１～３および当日追加資料に基づき、前回の審議会に出た意見に対する事務局の対応について説明。 (委員) アンケート【市民編】の結果の概要について ①項目の順番をソフト関係→ハード関係に並び替えてはどうか。 ②【様々な文化芸術を頻繁に鑑賞・活動できる場の確保】の「頻繁に」の文言が不必要だと思う。 ③【子どもたちが文化芸術に触れやすい環境の整備】について、文化芸術は楽しいことだけでなく苦しい練習などもあるので、「学び」という言葉を入れたほうがいい。【子どもたちが文化芸術に親しむ機会と学びの場を創出】にしてはどうか。 ④情報の周知については、それを受け止める側から情報が伝わってこないというアンケート結果が出たので、【市内で行われる文化芸術の催し・活動情報の周知】を【市内で行われる文化芸術の開催情報や活動周知方法の工夫】にしてはどうか。 ⑤【弘前市の文化芸術の持つ魅力の発信】については、少し大きく考えて、【弘前市の文化芸術の魅力を内外に幅広く発信】にしてはどうか。 → (議長) こちらについては特段異論がないので委員のご意見のとおりに修正したいと思う。 (議長) 計画素案 P.27 第５項①で「子どもたち<u>の</u>文化芸術に触れる機会が不足している」を「子どもたち<u>が</u>文化芸術に触れる機会が不足している」とすべきかどうか迷っている。 特に反対意見がないので、現行の「子どもたち<u>の</u>文化芸術に触れる機会が不足している」のままにする。 (委員) P.35 の「アクセシビリティの拡大への配慮」の記述について、「情報の入手のしやすさや利用のしやすさへの配慮」としたほうがわかりやすいと思う。ただ、基本計画のキーワードとして必ず入れなければいけ
--	--

	ない場合は、（アクセシビリティ）と入れるのはいかがか。 →（事務局） 今回修正した文章は市の障がい者福祉計画の情報バリアフリーという項目からそのまま引用した記述でしたが、委員からのご意見を踏まえて、（アクセシビリティ）の表現を採用したいと思います。 （議長） P.35 の「4 大まつり」について、何が4 大まつりにあたるか可視化してほしい。 （委員） P.44 の推進体制図中の「プラットフォーム」という言葉は市民には意味が伝わりづらいと思う。プラットフォームのイメージを伝えられる言葉が入ればいいのか。 →（議長） ふさわしい文言について委員の皆様の意見を聞きたい。事務局から今回の推進体制図の考え方について補足で説明をお願いしたい。 →（事務局） 推進体制図については、なかなか図のイメージがわきづらく、他自治体の事例を参考に作成しましたが、文化芸術を推進していくためには各主体がそれぞれの役割を果たせばよいのではなく、それぞれがつながりを持っていくことも必要となると思います。 そのつながりを作ることを各主体に任せてもよいものではなく、推進体制図中にお示したように、そのつながり作りの土台・基盤となるものが必要になると思います。 それをだれが担い、どのような土台・基盤を作るのかという議論はあると思いますが、事務局としては文化芸術の情報を発信するための土台・基盤が必要になると考えており、情報を集約して各主体に伝え、それをもとに各主体のつながりを作るというイメージを持っております。 →（委員からの提案） ・拠点 ・場 ・プラットフォーム（一度刷り込まれると何ということもなく伝わっていくと思う） ・プラットフォームに事務局からの説明を注で付けるとわかりやす
--	--

	いのではないか。 → (事務局) 事務局で注の文章案を作成し、会長に一任する形で進めたいと思います。 (委員) P.32、33の基本目標4の「守り・つなぐ」だと、どうしても衰退の方向を強調してしまうイメージがある。 → (議長) 順番を入れ替えて、「深め・ひろげる／守り・つなぐ」とすればどうか。 → (委員) タテの継承というイメージよりもヨコの連携というイメージとして、「守り・つながる」だとかどうか。 → (委員) 「守り・創る」だとだいぶイメージが変わると思うがどうか。 → (委員) ここは従来の文化財を今後どうしていくかが念頭にある。現に存在する文化財を廃れ、無くすことのないようにするのが狙いだと思う。「守り・つなぐ」という言葉は文化財を守り、次世代に伝えていくというハード面を想定した言葉としては良いのではないか。 → (議長) 「守り・つなぐ／深め・ひろげる」の下にそれぞれの言葉の意味についての説明書きを加えることで対応する。 → (委員) 「守り・つなぐ」→「継承」、「／」→「・」に変えて、「継承・深め・ひろげる」とするのはどうか。 → (議長) 「／」→「・」に変えるのは良い案だ。「継承」だと少し硬い印象があるので、「つなぎ」とし、「つなぎ・深め・ひろげる」にしたいと思う。 (委員) 推進体制図中の教育機関等の左下部にある「大学の専門性を発揮し文化芸術教育」という記述は座りが悪い印象がある。 → (議長) 「大学の専門性を発揮し<u>た</u>文化芸術教育」という記述に修正する。
--	---

	(委員) P.47 の数値目標について、パーセンテージでの目標設定であれば、母数も明記したほうが良い。 【②基本理念について】 (事務局) 資料4に基づき、事務局側で提案した基本理念案3案について説明。 案1「文化芸術を享受・創造・発信できる 文化の薫り高いまち」 案2「文化の薫りに包まれ 新たな時代を拓く人が育つ 文化都市ひろさき」 案3「文化芸術のちからで 豊かな未来をはぐくむ 歴史・文化が息づくまち」 本計画にふさわしい基本理念を当審議会で決定したい。 (委員) 総合計画などではあまり「都市」という言葉は使わず、「まち」という言葉が多く使われている。特にご年配の方は弘前市というと市町村合併前の旧弘前市を思い浮かべる方が多いので、自分たちのこととしてとらえられる「まち」を使っているのではないか。 → (委員) 「文化都市ひろさき」という表現も、アンケートなどいろいろなところで見かける。人々の会話の中でも「弘前市は文化都市だから」という発言がよく出てくるため、基本理念に盛り込みたい気持ちがある。 → (事務局) 事務局案を考えた際、「まち」と「都市」については強い思いをもって盛り込んだわけではございません。 ただ、ほかの自治体の事例では「まち」を使って締めるところが多く、弘前市の総合計画でも将来都市像で「まち」で終わっているところが多いので、そのような流れは感じます。 事務局が「文化都市ひろさき」を持ってきたのは先ほどの委員の意見と似たような考えであり、計画の中で文化都市を標榜していく必要性も考慮すれば、「将来的にさらに発展した形での文化都市を目指していく」というイメージを持つこともできます。
--	--

	いずれにせよ、トレンドで選ぶか、昔からの流れを引き継ぐかという議論になるのかなと思います。 →（委員） 「文化都市」と「ひろさき」はセットでの言葉となるのか？ →（事務局） セットでの使われ方が多いです。 →（委員） 単に「まち」か「都市」かというよりも、「文化都市ひろさき」というブランド、市民のプライドの問題だと思う。 →（議長） 行政として「文化都市ひろさき」という表現を公式に使っているわけではないのか？ →（事務局） 前の総合計画では「文化都市ひろさき」の文言が使われておりましたが、現在の総合計画では使われておりません。 →（議長） 「都市」の概念がどのような定義かは定かではないが、弘前市が「都市」の概念に合致しないのであれば、合致しない用語で計画の理念に使用していいのかという懸念はある。総合計画やその他の計画等で「まち」という表現が多く使われているのであれば、「まち」を使用したほうが整合性は取りやすいと思う。 →（委員） 「都市」か「まち」かというよりも、前につく文章の中身によって総合的に考えて選んでいくことになるのではないかな。 →（議長） おっしゃるとおり前段の文章を踏まえて考えていくのが良いと思うが、本計画が総合計画の下位計画として位置づけられているため、総合計画を意識しながら検討していく必要はあると思う。 →（委員） 以前の総合計画には「文化都市」という言葉があったが、これは『弘前市は周辺市町村と違う』という驕りが表れていたと思う。その姿勢を修正して、今は「まち」という言葉を使っている。 「まち」は単に場所だけでなく、そこに住む人のイメージがついてくる。言葉のイメージとして、「都市」はコンクリートの乾いたイメージ、「まち」は木材や草などの湿ったイメージだ。なので、私は「まち」にこだわりたい。
--	--

	(議長) 案１～３で表現が一番妥当だと思うものについてご発言いただきたい。 (委員) 案２が良いと思う。理由としては、人が中心になっていて、漠然とした表現ではないからだ。 少し文言を改変して以下の案はどうだろうか。 「文化の薫りと 新たな時代を拓く人が育つまち ひろさき」 (委員) 案３が良いと思う。理由としては、「ちから」という言葉はきつい印象もあるが、これからの時代を生きていくため、人を動かし人を育てるために「文化芸術のちから」が必要となる。この審議会で各委員が今後の弘前を話し合っているエネルギーも「文化芸術のちから」によるものだと感じる。 少し文言を改変して以下の案はどうだろうか。 「文化芸術のちからで 新たな時代を拓く人を育てる 歴史・文化が息づくまち ひろさき」 (委員) 以前東日本大震災の被害地域を見に行ったときに、「文化芸術のちから」が復興に大きく貢献したと聞いた。ぜひ「文化芸術のちから」を使ってほしい。 (委員) 理念は必ずしもわかりやすさが求められるものではないと思う。 以下の案はどうだろうか。 「文化芸術を享受・創造・発信し続ける 文化都市ひろさき」 (委員) 市が作る理念は固く抽象的になりがちだが、それは権威付けや融通性を持たせるなどの理由があると思う。 「文化芸術のちから」というのは、外から見るとそれほどに取り組んでいるのかと思われるが、力強い言葉なのであえて出してもいいと思う。文化芸術は人の感情を動かすパワフルなものだと思う。
--	---

	また、案２の「新たな時代を拓く人が育つ」は具体的で良い言葉だと思う。 (委員) 「新たな時代を拓く人が育つまち」だと長いので、「時代を拓く人が育つ」でよいのではないか。 (委員) 「ひろさき」の言葉を入れず、「文化芸術のちからで 新たな時代を拓く人が育つ 歴史・文化が息づくまち」が良いのではないか。 (委員) 観光パンフなどには「歴史・文化が息づくまち」がよく使われているので、弘前のイメージとして定着していると思う。 (委員) ここまで日常的に「文化芸術のちから」を感じられるまちは県内にはない。 → (議長) 私の経験からみても、弘前の文化芸術の発展や身近さはほかのまちに比べて突出しており、素晴らしいと感じる。歩いていてお城や生け花やお茶などの教室が出てくるのはなかなかないまちだ。なので「文化芸術のちから」という言葉を使うことに違和感はない。むしろそのちからを持て余しているとさえ感じる。 「文化芸術のちから」という言葉を使うことで、先ほどほかの委員から意見が出た市民の誇りや文化都市というニュアンスを表すことができると思う。 → (委員) ・地元の方々はこんなに文化芸術に浸って過ごしていることに気づいていないと思う。市内外にインパクトを与えるという意味で、「文化芸術のちから」という言葉がいいと思う。 ・「まち」についても、人が生きているイメージが伝わる。 ・「まち」という言葉はいろいろな自治体で使われているので、弘前という地名をセットで入れたほうが良い。
--	---

	(委員) どこのまちもそうなのかもしれないが、弘前の人「ひろさき」という言葉が結構好きなのではないかと思う。 (事務局) こういう計画ものはよく絵に描いた餅だと言われるが、今考えていただいているこの基本理念がわかりやすく市民に伝わってほしいと思う。 以上の意見をもとに、基本理念は以下に仮決定した。 「文化芸術のちからで 時代を拓く人が育つまち 弘前」 (事務局) 本日も長時間ご議論いただきありがとうございました。いただいたご意見を踏まえてこの後計画素案を修正・追加し、会長にご確認いただいたうえで、5月中旬から約1ヶ月間、計画素案に対するパブリックコメントを募集いたします。 7月下旬の次回審議会では計画の最終案をお示しいたします。 5. 閉会
その他必要事項	なし